

1 訓練評価の概要

(1) 評価の目的

令和2年度富山県原子力防災訓練を通して、原子力災害に関する防災体制の実効性の確認及び地域防災計画や避難計画の検証並びに改善に資することを目的とする。

(2) 評価の方法

令和2年11月22日（日）に実施された訓練を対象に、訓練参加機関による自己評価及び原子力防災に関する最新の知見を有している者による外部評価（第三者評価）及びを実施した。訓練項目別の評価の実施の有無を表1-1に示す。

本訓練の評価にあたっては、内閣府（原子力防災担当）が策定した「原子力防災訓練ガイダンス 訓練の企画、実施、評価及び改善のあり方（改訂案）」（平成31年3月）、「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル＜総合防災訓練編＞（試行版）」（平成31年3月）及び「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル＜本部等運営訓練＞（施行版）」（平成31年3月）を参考にした。

表1-1 訓練評価の実施の有無

訓練項目名	自己評価	外部評価
①富山県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンター運営訓練	○	—
②緊急時通信連絡訓練	○	—
③原子力災害対策本部等の設置運営訓練	○	○
④緊急時モニタリング訓練	○	—
⑤住民等に対する広報手順確認	○	—
⑥氷見市UPZ全域を対象とした住民の屋内退避訓練	○	—
⑦感染症拡大防止対策を踏まえたバス避難に関する手順確認	○	—
⑧交通誘導・警戒警備手順確認	○	—
⑨ドライブスルー方式による安定ヨウ素剤緊急配布の手順確認	○	—
⑩氷見運動公園での避難退域時検査運用方法の確認	○	—
⑪感染症流行下における避難所の設置・運営方法の確認	○	—
⑫原子力災害医療に関する手順確認	○	—

ア 自己評価

自己評価は、各訓練拠点で訓練直後に実施された訓練参加機関による振り返り等を基に、表1-2に示す実施結果調査票（記載例）を用いて、各訓練における「良好な事項」及び「課題」を抽出した。

表1-2 実施結果調査票（記載例）

訓練種目	機関名	○良好な事項、●課題
(1) 富山県現地災害対策本部 及び志賀オフサイトセン ターの運営訓練	県防災・危機管理課	【記入例】 ○・・・が実施できた。 ●・・・の検討が必要と考える。

イ 外部評価

外部評価は、富山県広域消防防災センターで行われた富山県災害対策本部訓練を対象に、下記の通り評価員を3名配置した。

【評価員】

- ① (株) 総合防災ソリューション 代表取締役 菊池 政巳
- ② (株) 総合防災ソリューション 顧問 山本 忠雄
- ③ (株) 総合防災ソリューション 危機管理業務部長 澤野 一雄

評価は、評価チェックシートに基づいて活動を記録し、訓練における「良好な事項」及び「改善すべき事項」を抽出した。評価項目は以下の通り。

【評価項目】

- ① 特定事象発生情報等の連絡
- ② 災害対策本部等設置・移行
- ③ 応援・派遣要請（職員、専門家、自衛隊等）
- ④ 災害対策本部等の指揮系統
- ⑤ 情報活動（収集、整理、分析、共有）
- ⑥ 防護活動の準備・実施の意思決定、実施状況確認
- ⑦ 防護活動以外の準備・実施の意思決定、実施状況確認